

北海道通信

昭和50年6月12日第3種郵便物認可
日刊 祝祭日、日曜日、土曜日 休刊

日刊教育版

令和7年6月6日(木曜日) 第12831号
発行所 札幌市中央区北5条西6丁目
株式会社 北海道通信社
〒(代) 222-3521 FAX 222-3532
発行人 松木 謙 公
支社 東京6272・4534 旭川243267 函館27781
釧路235241 帯広247872 岩見沢234957
支局 室蘭21735 苫小牧55570 網走433719
小樽230515 稚内337111 留萌22716
(購読料 1ヵ月 12,960円)

人と自然を大切にした
価値ある商品づくりを。

TOMBOW

スクールウエア/スポーツウエア/ケア&リハビリテーションウエア/ビジネスウエア

〒北海道トンボ株式会社

〒060-0906 札幌市東区北6条東5丁目
TEL(011)742-2551(代) FAX(011)731-1176
URL http://www.h-tombow.co.jp

道教委 新任教頭等の負担軽減へ

業務手引リンク集開設

相談窓口やサイトを一元化

道教委は4日、教職員のための業務マニュアル等リンク集をウェブページで公開した。新任教頭などの負担軽減を図るため、道教委が作成・公開している各種業務マニュアル、事案に対応する相談窓口、ポータルサイトなどを一元化。日常の業務やトラブルの発生時、新任教頭が参考になる内容を中心にまとめている。市町村立学校や教頭以外の職員も参考にすることができるとしている。

トラブル発生時も

道教委の学校における働き方改革アクション・プラン(第3期)では、副校長・副校長・教頭は、各種調査への対応や学校内外の調整などによって長時間勤務が常態化している。このた

め道教委の学校における働き方改革アクション・プラン(第3期)では、副校長・副校長・教頭は、各種調査への対応や学校内外の調整などによって長時間勤務が常態化している。このた

通知していたが、リンク集によって情報を一元化し、スムーズかつ早急に情報を収集できるようにする。学校単独で解決すること

来の業務が停滞するケースが多く発生する中、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スクールロイヤー、警察など学校現場を支援する外部人材・外部機関は多様化しており、関係各課への問い合わせ先を分かりやすく周知することもねらいとする。4日時点で各種業務マニュアル・手引を28件公開しており、危機管理、服務制度、子育て職員への対応など用途に応じたマニュアルを参考にすることができるとしている。

道教委教職員課の遠藤新理課長補佐は「リンク集を活用して資料探しの時間を削減することができれば、学校関係者からの意見を参考にしながら内容をより充実させていきたい」と話している。

今後随時内容を更新する予定で、ウェブ上のアンケートフォームから評価・要望・意見を受け付けている。

第4回全道代表高校長研究協議

入選業務 適切な執行を

連携して教育課程構築へ

道 教 委

道教委は4日、道庁別館で第4回全道代表高校長研究協議会を開いた。写真

出願者数や、出願者の学区分を誤って報告した事案が複数判明したこと

スが二度と起きないよう、学校を支援する体制を整えていくとし、各学校において、入選業務に係る実施マニュアルを担当者全員であ

②では、昨年12月、文部科学省における中教審への諮問で、今後、次期学習指導要領改訂に向けた検討が行われることになったこと

道教委は4日、道庁別館で第4回全道代表高校長研究協議会を開いた。写真

出願者数や、出願者の学区分を誤って報告した事案が複数判明したこと

スが二度と起きないよう、学校を支援する体制を整えていくとし、各学校において、入選業務に係る実施マ

このため道教委は、昨年末に発足した同協議会と共にオンラインセミナーの開



道教委と道小児アレルギー連携協議会は、28日午後1時30分から「アレルギ対応について学ぶ」オンラインセミナーを開催す

道教委等 アレルギー対応支援へ

28日に遠隔セミナー

専門家による講義・事例検討

道内児童生徒のアレルギ被患率は全国と比べて高い傾向にある。道教委の5年度調査によるとぜんそくの小学生の割合は6・40%

アレルギ専門医がいない地域、移動時間が長いため通院が難しい地域も多く、保護者・主治医との連携に苦慮する声も上がっている。



真駒内キッ

大雪で臨休219校に
全校休校28市町村

道 教 委

ONE-TEAM
ニュース4号発行

道 教 委

解説

自殺予防教育を全国展開

児童生徒の自殺者数が過去最多を記録する中、文科省は7年度から自殺予防教育の指導モデルの全国への普及促進を図るモデル事業の着手を計画している。

自殺対策の情報を発信するデジタルコンテンツの作成に取り組む。文科省においては自殺予防教育の教材・指導資料を普及させるモデル事業に着手。これまで自殺予防教育は国において標準的な指導内容・教材を示しておらず、各学校の実情に応じて実施していた現状にあった

する外部専門家を活用した協議会を全国10ブロックで開催するほか、自治体におけるゲートキーパーの養成研修の財政支援を講じることを検討している。

道教委は、災害における臨時休校の状況(5日午前10時現在)をまとめた。大雪による影響で、道立・市町村立を合わせて219校が臨時休校、33校が始業時刻繰り下げ、8校が下校時刻繰り上げの措置を講じた。

道教委は、ONE-TEAMニュース第4号を発行した。

令和6年における児童生徒の自殺者数(暫定値)は

また、心理学的知見を有して予算措置を講じる。

- 2面……道高校長協会 第3回理事研究協議会
- 3面……池田町教委 施設分離型義務校10年度開校へ
連載「令和の学校」を支えるⅡ」
- 5～7面……第4回全道代表高校長研各課所管事項①
- 8面……道教大附属札幌小・中 冬季授業研究

きょうの紙面

域内の全小・中学校、義務教育学校で臨時休校を行った市町村は28市町村となっている。管内別の内訳は後志が7町村、胆振1

市、檜山が7町、十勝が13市町。

学び質向上と働き方改革

道高校長協会 第3回理事研究協議

7年度方針や事業計画審議

道高校長協会(宮澤一会长)は4日、道庁別館で6年度第3回理事研究協議会を開いた。7年度活動方針や事業計画、8年度文教施策要望などについて審議。あいさつに立った宮澤会长は、過日開かれた全国高校長協会の理事会等の協議内容を報告し、学びの質の向上と働き方改革を同時に進めていく方策やカリキュラム・オーバードにない柔軟な学校体制構築等の必要性を説いた。

宮澤会长のあいさつ概要はつぎのとおり。

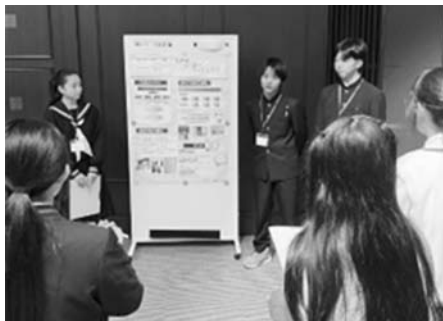
▼全高長研究協議会等について

1月16、17日に開かれた全高長の第2回企画運営会議・ブロック連絡会、都道府県高校長協会会長会議、理事会において、内田隆志会長から「学びの質を高めることと働き方改革を同時に進めていく方策を考える必要性」「カリキュラム・オーバードにならないような各学校の状況に応じた柔軟な体制等の構築」「大学入試の早期化、不適切と考えられる総合型選抜や推薦選抜の在り方」「教師の質の確保、教師の確保」の4点を文部科学省に伝えていく考えが示された。



柔軟な学校体制の構築等の必要性を示した

全国いじめ問題サミットに参加 互いに認め合う活動を 真狩中 ポスター発表など



から生徒会長の岡本一澄さん(2年)、副会長の柳澤慶伍さん(2年)、書記の松原杏奈さん(1年)の3人が参加し、全国の小中学生と交流した。

【小樽発】真狩村立真狩中学校(石川周亭校長)は1月25日、東京都内で開かれた文部科学省主催の6年度全国いじめ問題子供サミットに参加した。生徒会役員の3人がポスターセッションやグループ協議に臨み、全国の小中学生と交流。校内での取組などを発表し、互いを認め合う活動などに取り組んでいく考えを示した。

本年度のサミットのテーマは「いじめを生まない環境づくり」私たちの視点から学校内・学校外で何ができるか。

北海道代表として真狩中

宮本久也事務局長からは「総会参加費・会費の改定」「教員定数改善を求めるPT(プロジェクトチーム)」について説明があった。

総会参加費・会費の改定については、総会参加費を本年度から5000円を4000円にしたが、7年度から年度会費を8000円から1万円に改定することから、今後も参加費を4000円としても協会運営は行えることが示された。

道教委 アイヌ文化財専門職員研

世界観 未来解く鍵に

札幌大・本田教授が講演

道教委は1月31日、道庁別館でアイヌ文化財専門職員等研修会を開いた。写真

ポスターセッションの様子

の取組を進めるなど「互いを認め合う活動」に取り組んでいきたいと話した。

グループ協議では「いじめが生まれる原因」をなくすためのアイデアなどを話し合い、自分の考えを堂々と表明した。

岡本さんは「ロールプレイングの取組など斬新で自分では思いつかない、たくさん参考になる意見があり、今後のいじめ対策に生かしていきたい」と意欲を示した。

柳澤さんは「ピンクシャツデーなど、今回のサミットで知った取組を取り入れ、より良いいじめ対策を行っていききたい」、松原さんは「個人と個人がコミュニケーションを取ることで、互いの感じ方を理解し合い、独りぼっちが減ることではないか」と感想を述べた。

3人は、あす7日に行われる第2回後志地域いじめ問題等対策連絡協議会でもポスターセッションの内容を発表する予定だ。

教員定数改善を求めるPTについては、プロジェクトメンバーを中心に素案を作った。都道府県高校長・協会長研究協議会で意見をいただき、その後1月中旬に会長を通して、各都道府県の意見があれば寄せていただき、3月には文科省に申し入れをすること、今のところ、学校・教師が担う業務に係る3分類の高校版の作成、高校における35人学級の実現、標準法の改正除すべき数の見直し、加配等に関して強く要望するとの考えが示された。

協会の活動

▽調査研究部の活動

1月14日に、主査・委員長研究協議会に続き道教委

への報告会を実施した。柴田亨教育指導監、山城宏一学校教育指導担当局長、高田安和高校教育課長、森田靖史生徒指導・学校安全課長から助言をいただいた。

また、来年度の委員の募集や調査・研究活動に對しての理解・協力を切に願う。

▽採用校長のための事前研修会および昇任教頭のため3月15日に札幌南高校を会場に開催する。支部長・ブロック長の校長を通して、参加対象者のいる学校に連絡する。

また、本年度から、昇任教頭においても、当日、教

育懇談会を開催するよう計画している。

▼文教施策要望、人事異動調査について

一昨年度、文教施策に関する要望について、グーグルフォームによる調査となったが、前年度から、人事異動に関する調査についても同様に、グーグルフォームを活用している。

道教委との適切なやりとりを行う上でも、今後も実効性のある取組にしていきたいと考えているので、理解・協力をお願いする。

▼道高体連・高野連・高文連事務局のローテーションについて

5年度、札幌北陵高校が全道高文連と高野連札幌支

部の事務局を同時に担うことになり、全道3連盟と3連盟札幌支部(石狩支部)の事務局が重ならないために、全道3連盟の事務局を固定化する方向性が5年度2月の理事研で示された。

その後、本年度の第1回理事研、第2回理事研においても、進捗状況を報告し、本日事務局のローテーション案が出される。

理事研は、総会に次ぐ審議機関であり、各支部もしくは所属する各組織の意見等を共有し、ベクトル合わせをする役割を担っている。

本日も、最後に各部会・各連盟等が報告などをするのでお願いする。

札幌大学の本田優子教授が「アイヌ文化の現状と課題」と題し、アイヌ民族の世界観や歴史を解説。今ある資源を次世代へと引き継ぐアイヌの視点の重要性を説いた。

研修は、道内でアイヌ文化に携わる職員を対象にアイヌ文化財に対する理解を深め、保存・伝承・活用を図るため開催。

アイヌ文化に関連する文化財保護に携わる専門職員や学生30人が参加した。



に役割があり、役割を果たすことで天に帰る「カムイ」の概念、小熊を大切に育てたあとに魂を天に送る「イオマンテ」の儀礼、言葉を非常に大切にする文化などの特徴を説明した。

海を渡る交易の民としての一面とともに、和人の進出によって窮乏化していく歴史を解説。交易が制限されることで多くのアイヌ民族が労働者となり、素晴らしい工芸品が本州に伝わったことを「形を変えて交易の民としての姿が受け継がれてきたのではないかと指摘した。

アイヌの若者が自らの文化を学ぶ経験がない課題を踏まえ、大学進学を支援するとともにアイヌの歴史・文化を学ぶ機会を提供する「ウレシパクラブ」を設立。活動の輪が広がる中、他大学においても奨学金制度やアイヌ文化教育を充実させる必要性を提起した。

最後に、有限な資源を次世代につなぐアイヌの文化を「未来解く鍵」であるとし「私たちはあまりにも今生きている時点では考えていない。長期的な視野で考えることを学ばなくてはならない」と呼びかけた。

厚別高・長瀬さんが大賞

道展U21に過去最多868点

道美術協会が主催する道展U21が1月31日から3日間、札幌市民ギャラリーで開かれた。大賞を受賞した札幌厚別高校の長瀬朔弥さんの立体「守る者」など、平面・立体作品を合わせて

過去最多の868点を展示。会場を訪れた人たちは、一人ひとりの個性が満ちあふれた作品に目を奪われていた。

道展は、大正14年の開催以降、本道の文化芸術の発展と普及に寄与してきた。U21は、若手人材の発掘を目的に、平成19年度から始まったもの。15歳以上21歳以下を対象に、全道各地から出品作品を募っている。



15回目を迎えた今回は、平面821回、大賞作品などに目を奪われた

点、優秀賞に189点、奨励賞に272点を選出。会場を訪れた人たちは、若さにあふれた個性豊かな作品の数々に魅了されていた。

2日に開かれた表彰式では、各受賞者に表彰状が手渡され、今後のさらなる活躍を期待した。

きょう実績発表大会

農業フォーラムで生徒登壇 岩農高

【岩見沢発】岩見沢農業高校(野村博之校長)は、きょう6日午前9時30分から岩見沢市民会館文化センターマナミールで校内実績発表大会を開く。地域の課題解決を目的として取り組んだプロジェクト学習の成果を発表する。

また午後4時から市内の自治体ネットワークセン

ターでみんなで農業を語ろう。農業フォーラム2025 in 岩農を開催。同校7学科の代表生徒が農業の未来を有識者と語る。

修了書授与式 3月1日開催

美唄聖華高

【岩見沢発】美唄聖華高校(内海久校長)は、3月1日午前10時に同校体育館で専攻科看護科第52回修了書授与式を挙げる。入場は9時55分から。

寿都潮路小 キャリア教育 地域で活躍 大人に学ぶ

役場職員が仕事内容など紹介



【小樽発】寿都町立潮路小学校（藤村輝之校長）は1月27日、6年生のキャリア教育の授業において外部講師を招いて授業を行った。写真。講師を務めた町職員の山崎賢流氏は仕事の内容などについて解説。地域で活躍する大人の姿から、児童は職業観を広げ、将来の進路を考える機会とした。

総合的な学習の時間「自分を見つめて」の一環で授業を実施した。講師は、町産業振興課に勤める山崎氏。2年前に寿都高校を卒業し、念願の地元役場への就職を決めた。冒頭の自己紹介では、小学生の時の夢を紹介。当時、見ていたテレビドラマをきっかけに弁護士になりたいと思っていたが、地域で活躍する大人の姿を見て次第に地元で働きたいという気持ちが強くなったという。

続いて、仕事内容を紹介。町内にある八つの漁港の管理や各種補助金に係る事務を行っているほか、子どもたちの水産学習のサポートを行い、次世代の担い手育成にも携わっていることを伝えた。

子どもたちからは、仕事をする上で苦労している点について、質問が上がった。山崎氏は制度など覚えることが多く習得するのに時間がかかることが大変であると話す一方、生まれ育ったまちで、大切に育ててもらった分を何倍にもして恩返ししていくことが今の自分を支える原動力になっていると話し「人のためにする行動を増やしてほしい」と子どもたちにメッセージを送った。

講話を聞いた児童は「誰かの幸せのために働く山崎さんの生き方にとても感動した」「私も将来は、まちの人のために役場で働きたい」と山崎氏の地元に対する思いが子どもたちの心を動かした。

また、今回の授業を計画した担任の小中準基教諭は「児童にとって遠い未来のよう感じてしまう話を、若い山崎さんに話していた方がいいことで、いつもより心に響いていたと思う。また、何よりも、想像がつかないほどの内に秘めた熱量が、しっかりと児童に伝わって良かった。引き受けていただいた山崎さんには感謝しかない」と振り返った。

町教委は「山崎さんは学校の授業でお世話になった役場職員に憧れ、役場への就職を決めた。学びを通じて出会った大人に憧れ、また、つぎの世代へとその意思が受け継がれていくそのサイクルは、ひとつのつながりづくり、地域づくり、を目指す社会教育としての好事例」と取組に期待を寄せている。

青別高 2年生探究活動発表会 地域創生の成果披露 特産品使用した商品開発等



【岩見沢発】青別高校（小形和律校長）はこのほど、同校で2年生探究活動発表会を開いた。写真。地域創生に係る商品開発やまちの振興、高校生力フエなど

のテーマについて研究。活動を支えた地域創生塾、学校運営協議会や、来年度から研究を行う同校1年生を前に、今までの活動成果を披露した。

地域創生活動に対して、主体性を持たせ、他者と協働して活動する姿勢を身に付け、今後の探究活動に対して見通しを持たせることを目的に実施。2年生50人が8グループに分かれ活動した。

はじめに、小形校長が挨拶。活動を支えた地域の駅スタンプラザ青別で実施した高校生力フエでの売上金を荻原貢市市長へ贈呈。荻原市長は「地域の現状を理解し、課題を知って活動することにも関心している」と述べ、感謝状を手渡した。

このあと、活動発表に移り、各グループがプレゼンテーションした。商品開発をテーマに、市

帯農高 わが村は美しく運動WS 十勝の景観の“推し”は 地域資源踏まえ協議・発表



【帯広発】帯広農業高校（佐藤裕二校長）の農業土木工学科2年生34人は1月29日、同校で開発局が開催する「わが村は美しく北海道」運動・景観ワークショップに参加した。写真。ワークショップに参加した11写真。畑や防風林といった十勝らしい景観や推しポイントについて発表するなど、農村景観の重要性について理解を深めた。

開発局は貴重な地域資源の一つである農村景観について理解を深めてもらうことをねらいに実施しているもの。同校と開発局帯広開発建設部帯広農業事務所との教育支援パートナーシップを生かすなど、写真から十勝らしい景観について意見を交わした。

2回目となった当日は2年生34人が参加。ワークショップで「私たちが選ぶ十勝の○○景観」についてあらためて話し合ったあと、5班に分かれて成果を発表した。

生徒たちは「私たちが選ぶ十勝の美しい景観」「私たちが選ぶ十勝の守るべき景観」などをテーマに橋や畑、防風林などの写真について調べた内容や推しポイントを発表。

平成21年に完成したずらんだ橋については「橋から見る景色はとても良く十勝らしい」、帯広市内の川西町の田園風景については明治26年ごろに始まった同町の農業の歴史を紹介したほか、写真について「十勝の広大な自然を感じられる、防風林については表土の喪失を防ぐことができる」などと発表した。

生徒の発表に対して中井理事長は、防風林について風害を防ぐ効果のみならず、日陰によって土の温度

貴重な経験後輩たちに 別海高 海外視察研修報告会 カナダ、NZでの体験紹介

カナダ、NZでの体験紹介

【釧路発】別海高校（織井恒校長）は1月29日、同校で海外視察研修報告会を開催した。写真。海外視察研修に参加した酪農経営科の生徒と農業特別専攻科の学生各2人が登壇。日本と現地の酪農経営や環境の違いについて発表。

いなど、研修で得られた知識や経験を伝えた。報告会には、昨年11月に行われた酪農経営科のカナダ研修会に参加した生徒2人と、10・12月の農業特別専攻科によるニュージーランド研修に参加した学生2人が登壇。現地を学んだ日本との酪農文化の違いについて発表した。

カナダ研修の報告に立った生徒たちは、牛舎内で放し飼いを吹き抜けるリーストール牛舎を大勢の前で研修の成果を発表した。

16日音楽講座開催
クラシック楽しむ
釧路市中央図書館

16日音楽講座開催
クラシック楽しむ
釧路市中央図書館

郵便と切手楽しむ
22日にWS開催
釧路市博物館

【釧路発】釧路市中央図書館は、16日午後1時から第3回クラシック音楽講座を開催する。

「トルコ行進曲の背景」をテーマに、作曲家の二橋潤一氏が講演する。事

【釧路発】釧路市立博物館で、22日に日本郵便協会釧路支部によるワークショップ「郵便と切手を楽しもう」を行う。

午前10時～正午、午後1～3時の2回実施。参加無料、時間内であれば自由

【釧路発】釧路市立博物館で、22日に日本郵便協会釧路支部によるワークショップ「郵便と切手を楽しもう」を行う。

午前10時～正午、午後1～3時の2回実施。参加無料、時間内であれば自由

【釧路発】釧路市立博物館で、22日に日本郵便協会釧路支部によるワークショップ「郵便と切手を楽しもう」を行う。

【釧路発】釧路市立博物館で、22日に日本郵便協会釧路支部によるワークショップ「郵便と切手を楽しもう」を行う。

第4回全道代表高校長研各課所管事項①

オンラインで「教員基礎」

産学連携カンファレンス等開催

道教委の第4回全道代表高校長研究協議会では、各課が所管事項を説明した。みらいの教員育成プログラム

の7年度以降の方向性などについて解説。北の専門高校ONE-TEAMプロジェクトに関わっては、産業界等と連携した専門高校の取組を共有する「産学連携カンファレンス」を20日、洋上風力発電産業に関する理解を深める「洋上風力発電理解促進セミナー」を25日にそれぞれ開催する予定を示した。

所管事項の概要はつぎのとおり。

高校教育課

【教育課程の編成・実施】

▼道高校教育課程研究協議会(各教科・全体)

各教科等の教育課程研究協議会については、昨年10～11月に教科ごとにオンライン形式で開催し、約2800人の教員に参加していただいた。昨年に引き続き、協議会の参加について対応いただいたことに感謝。

各教科における「個別最適な学びと協働的な学び」の一体的な充実について「高校教育課程編成・実施の手引」をもとに説明するとともに、道立高校教諭等による「学習指導および学習評価の工夫改善」に係る提言および研究協議を実施。

全体の教育課程研究協議会は、昨年12月13日にオンラインで開催し、約260人の教務主任等が参加。

学習指導要領の趣旨や内容等について「高校教育課程編成・実施の手引」をもとに説明するとともに「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて」生徒を主語にした授業への転換」について協議・演習を実施。

各学校においては、研究協議会の成果を共有する校内研修会を実施するなどして、教育課程の改善・充実に努めるようお願いする。

▼7年度教育課程表の提出

2月上旬に発出予定である「7年度高校教育課程の届出について」に関する通知に基づき作成の上、提出いただきたい。

土曜日授業については、D表によって本年度の実施状況を報告するとともに、

基つぎ、政治的中立性を確保することが求められるとともに、教職員については、多様な見方・考え方の導き、現実の利害等の対立のある事柄等を取り上げる場合には、生徒の考えや議論が深まるよう様々な見解を提示するなどして、特定の見方・考え方に偏った取り扱いにより、生徒が主体的に考え、判断することを妨げることをないよう十分に留意していただきたい。

▼7年度公立高校における新聞を活用した取組の推進

道教委では、日本新聞販売協会北海道地区本部と連携し、北海道の4ブロックから、それぞれ道内の高校を「モデル校」として1校を選出し、複数紙の新聞を活用した授業を行い、実践の成果等を「道高校教育課程編成・実施の手引」に掲載するなどして、各学校に普及している。

モデル校では、1～3学年の公民科、総合的な探究の時間等において、数回の授業等で新聞を活用していただいている。

今後、所管の教育局を通じて、次年度のモデル校の候補校に打診するので、本事業の活用について検討いただくとともに、モデル校においては、本事業の活用時期を踏まえて年間指導計画を作成いただきたい。

【消費者教育および金融教育の充実】

成年年齢が18歳に引き下げられ、成年となった高校生が様々な契約を行うことができることを踏まえ、各学校においては、消費者庁が作成した教材「社会への扉」を活用するなどして、消費者教育の充実を図っていただきたい。

【各種事業等】

▼S-T-E-A-M教育推進事業

4年度～6年度までの、本事業の取組への協力に感謝。本事業では、大きく3つの目的を掲げ実施した。事業終了後も、各学校において引き続き、教科等横断的に資質・能力を育成する校内体制の構築、探究の過程を通じて課題を解決するために必要な資質・能力を育む授業実践、生徒の言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力の育成に努めていただきたい。

▽「探究」チャレンジプロジェクト

各地域での探究活動の成果発表会は、予定どおり全ての地域で実施済み。各校の協力を感謝。

全道成果発表会「探究チャレンジ・アジア」は、1日に北海道大学を会場として実施。参加校においては、生徒の発表準備に対する指導のほか、引率教員に審査員として協力いただき感謝。

道立教育研究所と連携して実施している「総合的な探究の時間」実践研修について、本年度は空知、石狩、渡島、檜山の4管内で実施、3年間で全管内終了。総合的な探究の時間の担当教諭等の参加に配慮いただき感謝。本研修の成果を学

などについて検討いただきたい。

また、つぎのような講義や研修、資料等を活用し、消費者教育および金融教育の充実を図っていただきたい。

▽道経済産業局が実施する「高校生向け消費者教室」などの生徒向けの講義

▽道消費生活センター等の関係諸機関が実施する教員向けの研修

▽NPO法人や金融機関が実施する高校生向けの金融教育プログラム

▽本年度の「教育課程編成・実施の手引」(家庭科のトピックで「外部人材を活用した消費者教育・金融教育の取組」の事例を掲載)

【北方領土の学習の充実】

北方領土における実話をもとに製作された映画

校のカリキュラム・マネジメントに生かしていただきたい。

▽「社会との共創」推進プロジェクト

四つの類型を合わせて、全ての管内から延べ54校296人が参加。類型ごとにオンラインで成果発表を実施し、代表校を「探究チャレンジ・アジア」に派遣。生徒の探究活動への伴走支援に感謝。

▽「S-T-E-A-M」推進プロジェクト

外部連携支援事業(学校の管内から合計15校が探究活動を充実させるため、外部講師を招聘する際の謝金の支援を活用。各学校の活用状況を高校教育課のウェブページに掲載している)ので、参考にしていただきたい。

▼地域医療を支える人づくりプロジェクト事業

医進類型指定校については、28年度に本事業の実施要綱を改正し、指定校および協力校を毎年度募集することとしており、年度内に次年度の指定校および協力校を募集する予定。

高校生メディアカル講座については、本事業の指定校および協力校により14管内全てで実施済み。

▼みらいの教員育成プログラム

「ジョバンニの島」は、北方領土に関する生徒の興味・関心を高め、理解を深める上で有効な教材であり、26年12月25日付教義第1485号通知「北方領土を舞台にした映画『ジョバンニの島』の活用等について」を踏まえ、芸術鑑賞会での上映や図書館用DVDおよび原作図書の配置等について検討いただきたい。

また「領土・主権展示館」のウェブページを活用したり、修学旅行の見学先にしたたりするなど、北方領土の学習を充実するようお願いする。

【人権教育】

人権教育においては、人権に関する知的理解と、人権感覚の醸成を基盤として、意識や態度、実践的な行動力などの資質・能力を育成することが大切である。

「自分の大切さとともに他の人の大切さを認める」

道教委では、知事部局と連携して、人権教育の充実のため、ハンセン病に関する偏見や差別等を広く理解し、人としての思いやりのある心を育むことを目的に、28年度から「ハンセン病問題を考える教育セミナー」を石狩管内を中心に実施しており、6年度の「高校教育課程編成・実施の手引」(公民)にも実践事例を記載している。

国立ハンセン病資料館では、学校を対象とした出張講座等を無料で行っており、オンラインや現地訪問等に対応している。

各学校においては、これら手引や資料館を活用し、人権教育の充実をお願いする。

道教委では、高校段階から、教員としての素養を高めるとともに、教員不足に対応するため、本プログラムを道内3圏域で展開している。

どの地域に住んでいる生徒であっても本プログラムに参加できるよう検討し、7年度に、留萌管内において、オンラインによる「教員基礎」を試行的に展開し、8年度には、教員基礎を実施していない、その他の管内にもオンラインモデルの展開を構想。

オンラインモデルについては、2学年対象の「教員基礎」のみを実施することとし、「教員基礎探究」は実施しない予定。オンラインモデルのプログラムは、後期集中型で実施する予定。

次年度、各教育局が主催する各管内市町村教育長会議において、各教育局長から、各市町村教委に対し、本プログラムの説明と学校実習の受け入れについて説明する予定。

今後、8年度のオンラインモデルの実施に向け、教員希望者が一定数おり、毎年本プログラムへの参加が期待できる高校を「中心校(仮称)」(空知管内、石狩管内、上川管内、釧路管内、留萌管内以外)として依頼する予定のため、教育局か

ら依頼があった場合、理解・協力をお願いする。

▼高校DX加速化推進事業

6年度高校等デジタル人材育成支援事業費補助金(高校DX加速化推進事業)については、採択校において創意工夫を生かした取組をしていただいている。

6年12月19日付事務連絡で依頼したDXハイスター人材育成支援事業費補助金(高校DX加速化推進事業)については、採択校において創意工夫を生かした取組をしていただいている。

本取組事例集については、高校教育課のウェブページに2月末までに掲載する予定。

また、7年1月23日付教高第2846号通知において、7年度の高校等デジタル人材育成支援事業費補助金(高校DX加速化推進事業)の事業計画書等の提出について知らせた。

6年度の採択校については基本的には継続となるため、事業計画書等を提出いただくようお願いする。

7年度については、他校への視察等も積極的に行い、先進校の取組を参考に事業を進めていただきたいと考えており、旅費に視察費を計上することについて検討願う。

(6面に続く)

(5面から続く)
【特別な配慮を必要とする生徒への指導】
▼高校における特別支援教育支援員配置事業
次年度の支援員の配置校については、7年1月17日付教高第2796号通知「教育上特別な支援を必要としている生徒の状況および支援の状況の把握について」における調査によって、各学校の状況を把握した上で決定する予定。
これまでも各学校から支

援員の要望が多数あること、また、次年度の入学者に係る要望が複数校から見込まれることから、3年にわたり支援員が配置された学校や、国の生徒支援加配の配置校については、配置を見直すことも検討。
支援員による支援内容は、対象生徒への学習面および生活面等の直接的な支援のほか、校内研修の講師として、教職員の特別支援教育に対する理解啓発を促すことも含まれているた

め、配置校においては、学校全体で特別支援教育に係る理解を深め、教職員の指導力の向上および校内の指導体制の構築に努めていた。
▼6年度「ICTを活用した障害のある児童生徒等に対する指導の充実事業(病気療養中等の児童生徒に対するオンライン型授業の授業に係る調査研究事業)」
教育保障検討会議を令和7年2月13日にオンラインで開催予定。研究推進校の

成果等について交流し、有識者から助言をもらう予定。道立高校のほか、道内の市町村立高校や私立高校もオプザバーで参加できるので、積極的に参加していただきたい。
履修と修得の分離については、これまでの代表高等学校長研究協議会において、検討をお願いしているところであるが、特別な教育的配慮を必要とする生徒に対応する観点からもあらためて検討していただいた

い。
▼通級による指導
高校における通級による指導については、高校教育課のウェブページに「通級による指導の手引」を掲載しているほか「高校教育課程編成・実施の手引」に実践事例を掲載。また、本年度も高校通級指導担当教員活用事業を実施。各学校においては、制度に対する理解を深めるとともに、通級による指導を必要とする生徒に対して適切に対応するよ

うお願いする。
道教委では、高校におけるインクルーシブ教育推進体制整備事業の一環として、通級による指導の拠点校化を進めており、7年度から、札幌幌似工業高校を拠点校に指定して、札幌市および札幌市近郊の道立高校に、通級専任教員が出向いて通級による指導(巡回指導)ができる体制を整備する。
【卒業式等における国旗・国歌の実施】
各学校においては、7年1月20日付教義第1522号通知を踏まえ、国旗・国歌について引き続き、適切に指導していただきたい。

【修学旅行等の実施時期の柔軟な検討】
このことについては、6年12月23日付教高第2609号において、修学旅行等が集中する時期に、貸し切りバスや宿泊施設の手配が困難な状況となっており、修学旅行等を円滑に実施するため、地域の実情等にも鑑み、実施時期について検討いただくようお願いした。
本通知の別紙「修学旅行等の実施時期の柔軟な検討のお願い」を参考に、訪問先の繁忙状況を把握し、修学旅行等を円滑に計画・実施するようお願いする。
【学校評価】
各学校においては、平成20年10月29日付教高第925号通知を踏まえ、3月末日までに所管教育局宛てで提出いただきたい。
外部アンケート等の実施のみをもって、学校関係者評価を実施したとみなすことは適当ではないため、各学校においては、学校の自己評価の結果に基づいた学校関係者評価を適切に実施していただきたい。
また、自己評価および学校関係者評価の結果と、それらを踏まえた今後の改善方策などについては、学校だよりへの掲載、PTA総会等での説明、学校のウェブページや地域広報誌への掲載などにより、広く保護者や地域住民等に公表いただきたい。
【日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等】
「6年度日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査(北海道独自調査)」において、日本語指導を必要とする外国籍・日本国籍の生徒が1人以上以上在籍する道立高校は10校であり、前年度より1校増

加。
5年度から制度化された日本語の能力に応じた特別の指導については、4年12月7日付教高第2098号において基本的な考え方を示した。高校等において

は、中学校との連携を密にし、入学予定者の中に日本語指導が必要な生徒がどの程度いるかなどを把握し、特別の教育課程の編成を検討するなど、適切な支援体制の構築に努めるようお願いする。
【スクール・ミッションおよびスクール・ポリシー】
スクール・ミッションの再定義については、7年1月31日付教高第2857号通知「スクール・ミッショ

ンの再定義について」を発出した。
学校運営に当たり、教職員全員が学校のスクール・ミッションを意識するとともに、自校ウェブページ等を活用して、道民への周知、学校説明会等における周知などによって、スクール・ミッションを地域と共有しながら、その達成に向けた積極的に取り組むようお願いする。
また、スクール・ミッ

とに感謝。
成果発表会の内容等は「マイスター・ハイスクールだより」として、7年1月21日付事務連絡により送付するとともに、高校教育課のウェブページに掲載しているため、各学校における探究的な学習活動や職業教育の参考にしていただきたい。
▼「どさんこプラザ」における販売会
昨年12月13、14日の2日間、生徒が企業等と連携して開発した商品9点を、北海道のアンテナショップである「北海道どさんこプラザ札幌店」で販売。生徒が現地での販売を担当し、多くの来場者と交流を図りながら、商品のPRなどを通じて各学校の魅力を発信した。出品および販売に協力した。出品および販売に協力した。出品および販売に協力した。

とに感謝。
成果発表会の内容等は「マイスター・ハイスクールだより」として、7年1月21日付事務連絡により送付するとともに、高校教育課のウェブページに掲載しているため、各学校における探究的な学習活動や職業教育の参考にしていただきたい。
▼「どさんこプラザ」における販売会
昨年12月13、14日の2日間、生徒が企業等と連携して開発した商品9点を、北海道のアンテナショップである「北海道どさんこプラザ札幌店」で販売。生徒が現地での販売を担当し、多くの来場者と交流を図りながら、商品のPRなどを通じて各学校の魅力を発信した。出品および販売に協力した。出品および販売に協力した。出品および販売に協力した。

【就職指導】
▼7年3月公立高校卒業予定者の就職内定状況(6年12月末現在道教委調査)
▽就職希望生徒数15130人(前年同月5249人)
▽就職内定生徒数14514人(同4630人)
▽就職未内定生徒数1616人(前年同月619人)
▽就職内定率188.0%(同88.2%)
未内定者における0回受験者数は356人であり、前年同月と比較すると20人減少。
道労働局の調査では、求職者数が減少する反面、道内求人数が増加すること、11月末の有効求人倍率が3.67倍(前年同月に比べ0.05ポイント上昇)になるなど、この数年は高倍率で推移している状況。一方、卒業後3年以内の離職率(3年3月卒)は、全国の38.4%に比べて、北海道は45.3%と6.9%高い状況。
近年の就職に関する課題は「就職内定率の向上」から「早期離職の未然防止」に重点が置かれていることから、各学校においては、生徒や学校の実態に応じて、早期離職の防止に向けて具体的な取組を進めていただきたい。
▼就職内定者向けサポートセミナー2025
新規高卒者における早期離職の減少に向け、就職を予定している生徒を対象として、経験豊富なキャリアプランニングスーパーバイ

ザー2人を講師に、コミュニケーションスキルやセルフストレスマネジメントをテーマとしたセミナーを1月23日にオンラインで開催。
44校から約460人の参加があり、各学校において、多くの生徒に働きかけていただいたことに感謝。
参加した生徒からは「世代の異なる人とのコミュニケーションの方法について学ぶことができた」「労働条件や職場のルールについて学ぶことができた」などの感想が寄せられ、早期離職の未然防止につながる内容であったことから、各学校においても、次年度の本セミナーの参加について検討いただきたい。
▼併願調査結果(6年11月末現在)
▽10月末の未内定者数12029人(前年同月2059人)
▽11月中の併願による受験者数118人(同29人)
・うち2社内定者数16人(同13人)
・うち1社内定者数10人(同10人)
・うち未内定者数12人(同6人)
▼未内定者のうち併願受験者の割合10.9%(同1.4%)
7年3月新規高卒者の就職に関する申し合わせでは、11月1日から1人2社までの応募・推薦が可能となっており、11月の併願受験の状況を前年同月と比較すると、併願受験者数は11

人減少、就職未内定者のうち併願受験者を利用した者の割合は0.5ポイント下回っている状況。
8年3月新規高卒者の就職に関する申し合わせは、北海道労働局や経済関係団体等と連携する「道高校就職問題検討会議」において、本調査結果等を踏まえて、関係機関が連携しながら作成し、別途、各学校宛てで通知する。
▼検定試験問題の誤配付
1月に、道立高校において実施した資格試験の監督(教員)が、誤って前回実施分の問題を配付し、生徒の受験が無効になるという事故が発生。資格、検定などの関連業務が、生徒の進路へ直接、影響を及ぼす可能性もあることから、生徒および保護者から信頼されるものとなるよう、複数人によるチェック体制等をあらためて整備するなど、必要に応じた改善を行っていただきたい。
▼関係事業等
▽北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト
・半導体理解促進セミナー
1月14日にオンラインで開催した本セミナーでは、熊本市における人材育成の取組についての説明や、実際に半導体関連の仕事に従事している専門高校の卒業生による体験談などの講話があり、高校と産業界が一体となった半導体人材育成について理解を深めることができた。
企業・経済団体関係者等

16人、教育委員会関係者20人のほか、学校関係者から58人の参加があったことに感謝。
・産学連携カンファレンス
産業界等と連携している専門高校の取組やその成果を、本道産業教育の関係者が共有することによって、道内の各専門高校における職業人材育成システムの構築を促進することを目的とした「産学連携カンファレンス」を20日に開催。(1月15日付教高第2767号で通知済み。
本カンファレンスの内容については、産業界と連携した取組の推進に向け、各学校でぜひ参考にしていただきたい。
・洋上風力発電理解促進セミナー
今後需要が高まる洋上風力発電産業に関する学校の理解を深めることを目的とした「洋上風力発電理解促進セミナー」を25日に開催。(1月10日付教高第2732号で通知済み。
工業科および水産科を設置する高校のほか、就職希望者が多い普通科の学校も含め、進路指導担当教員の多くの参加を期待しており、本セミナーへの積極的な参加について、教員への働きかけをお願いする(申込締切は10日)。
・おしごとガイドブック
半導体、洋上風力、スマー

ト農業・水産業、建設DXなど、先端技術に従事する道内の専門高校を卒業した技術者を紹介した「おしごとガイドブック」を制作中であり、全道の中学1・2年生と高校1・2年生に2月下旬を目途に配付予定。
・産業実務家教員リスト
専門高校と産業界の連携を強化し、地域の産業を支える人材育成を目指して、専門高校における技術指導等が可能な方を掲載したリストの作成を予定しており、7年1月21日付教高第2826号で、専門高校や経済団体等に対し掲載の意向調査を依頼済み。
各専門高校においては、卒業生の進路先やインターンシップ先などで、専門高校との連携が可能であり、リスト掲載に協力していただけたような企業への声かけをお願いする。
▼マイスター・ハイスクール事業
厚岸翔洋高校の成果発表会については、全国の教育関係者が参加する中、生徒が主体となり3年間の取組を発表できたことで、大きな教育効果を得るとともに、本事業の成果を広く普及・啓発できたと認識。専門高校に限らず、多くの学校から参加をいただいたこと

を調査」の主な結果はつぎのとおり。
表参照
宿直明けの負担軽減策として、教員から表のような希望がある一方、43.9%の教員が負担軽減策が図られていないと回答。
(7面に続く)

北海道通信

（6面から続く）

関係の学校においては、休暇の取得等を教員個人に任せるのではなく、学校全体として取り組むなど、本調査の結果を踏まえて、宿直明けの負担軽減策に取り組んでいきたい。

▼その他（情報提供）
（株）マイナビから、高校生向け探究学習サイト「Locu」の周知について依頼があった。希望する場合は、別添資料の問い合わせ先に連絡していただきたい。

まえ、対外的に説明責任を果たせるものとなっているか、学習指導要領およびスクール・ミッション等を踏まえ、あらためて点検していただきたい。

平成30年告示の学習指導要領は令和4年度入学生から適用されており、本年3月に初めての卒業生が出ることから、卒業生が履修した教育課程についての成果および課題を検証するなどして、カリキュラム・マネジメントを進めていただきたい。

「単位制の課程における教育課程に関する情報の公表について」で公表した。

単位制による課程を置く高校においては、高校教育の機会に対する多様な要請に応え、履修形態の多様な弾力化を図るため、多様な科目の開設に努めるとともに、科目の開設方法に

ついて、複数の時間帯または特定の時期における授業の実施その他の措置を講じるよう努めるなど、単位制の制度趣旨を踏まえた教育課程の編成・実施が図られるよう、7年度入学者の教育課程の編成に向け、必要に応じて改善すること。

別の場合においては、教科・科目充実型の遠隔授業の実施も可能としていることから、連携校の教育課程の充実に向けた活用を検討をお願いする。

前年度から、連携の実施状況については、年度末に提出いただく「連携実施報告書」で把握することとしている。

なお、本実施要綱にあるとおり「連携実施報告書」は毎年度3月31日までに、「連携実施計画書」は毎年度4月10日までに所管の教育局長を経由して提出するようお願いする。

【高校生交換留学促進事業】
本年度は国立、私立を含め10校から応募があり、7校（8プログラム100人）が採択された。

短期留学プログラムを検討している学校においては、積極的な活用をお願いする。

▽主な内容
・補助対象：短期（原則10日以上1ヵ月未満）の留学プログラム
・補助金額：1人当たり6万円（保護者へ補助金を交付）
・補助人数：1校当たり20人まで
・他の民間団体等からの奨学金等との併用可

【総合学科などの多様なタイプの高校づくり】
生徒の興味・関心、進路希望等に応じた幅広い科目の開設、習熟度別指導やチーム・ティーチングによるきめ細かな学習指導の充実を図るとともに、教育課程編成・実施の状況が、それぞれのタイプの趣旨を踏

今後、例年実施している「多様なタイプの学校における教育活動に関する調査」において、6年度の実施状況および7年度の実施予定を把握することとしている。

特に、単位制の課程の学校の教育課程については、6年6月27日付事務連絡

実施計画書で把握しているところでは、全46人延べ104回の研修を実施する予定となっており、協力的にいただいた協力校に感謝。

本研修は、連携校の生徒の教育内容の充実ばかりではなく、将来的には、北海道教育全体の質の向上につながると思われる。

協力校の教員にとっては日常業務に加わる業務となるが、北海道の生徒および教育のために引き続き協力願う。

なお、次年度の連携校の

このことについては「道立高等学校地域連携校・地域連携協力校連携実施要綱」（5年3月30日一部改正）に位置付け、5年度から実施している。

実施計画書で把握しているところでは、全46人延べ104回の研修を実施する予定となっており、協力的にいただいた協力校に感謝。

本研修は、連携校の生徒の教育内容の充実ばかりではなく、将来的には、北海道教育全体の質の向上につながると思われる。

協力校の教員にとっては日常業務に加わる業務となるが、北海道の生徒および教育のために引き続き協力願う。

なお、次年度の連携校の

【小規模総合学科校等による地域と連携・協働した高校魅力力推進事業】
小規模となった総合学科校等が、地域創生の観点から地域と連携・協働して実施する高校の特色化・魅力化に向けた取組を支援するため、本年度は、該当する高校22校のうち12校で実施した。

次年度の事業計画については、別途通知し、関係書類の作成等についてお願いする。各学校の特色化・魅力化がより一層図られるよう、積極的に活用していただきたい。

【道立学校間連携】
本年度、13組23校で実施した。

3月8日から3月23日まで、北海道留学生5人を派遣する。

最後に、リスニング力を鍛えるために、英語の言葉遊びの歌「This is the house that Jack built」を歌いながらネイティブな発音を聞き取る力を育んだ。

授業の様子を見た柴原氏は「この授業を通じて、教えてもらうだけではなく、学び取る姿勢を身に付けてほしい」などとコメントした。

宿直に関する調査（重複回答あり）

宿直明け負担軽減策の希望

時間割の振替促進	31.3%
年休の取組促進	21.2%
SHRを他の教員が代替	14.7%
授業を他の教員が代替	7.9%
その他	88.5%
軽減策は必要ない	10.1%

行われている宿直明け負担軽減策

時間割の振替促進	19.8%
SHRを他の教員が代替	20.9%
年休の取組促進	20.5%
授業を他の教員が代替	4.3%
その他	11.2%
軽減策が図られていない	43.9%

冒頭、アイスブレイクとして自身の経歴などを紹介。平成13年に同時通訳者としてロンドンのBBCテレビジョンセンターで働いていた時、出勤日前日に武装勢力によって職場が爆破された経験話をし「現地の警察に壊れた建物に入って仕事することを止められても、日本に向けていろいろ

【網走発】網走市教委は3月1日午後2時から、オホーツク・文化交流センターで国際理解体験事業「世界を旅しよう」網走で外国を体験」を実施する。モンゴル、中国、台湾の三つのブースを設置し、文化や衣装、伝統料理などについてクイズや写真を使って紹介したり、運動や

【網走発】網走市教委は、8日（土）午前10時から、オホーツク・文化交流センターで子ども・子育て会議を開催する。市子ども子育て指導する。

定員は15人。事前申し込みは16日まで。

【網走発】網走市は、10日午後6時30分から市内のオホーツク・文化交流センターで子ども・子育て会議を開催する。市子ども子育て指導する。

定員は15人。事前申し込みは16日まで。

【網走発】網走市立博物館は、8日午後1時30分から講座「骨から考える、動物たちの暮らしと適応」を実施する。獣医師の山崎隼也氏を講師に招き、動物たちの適応進化や生物の多様性について学ぶ。

対象は小学5年生以上30人、参加無料。

上川高 N H K 講座講師が英語授業 学び取る姿勢を大切に リスニング力と発音力鍛える

【旭川発】上川高校（近藤伸校長）は1月31日、同校で英語科特別授業を実施した「写真」。NHKラジオ講座や英国公共放送BBCの同時通訳を担当していた神田外語大学専任講師の柴原智幸氏がリスニング力と発音力を鍛える授業を展開。生徒たちは、発音時の舌の動きや聞き取りのポイントを学んだほか、反復練習

習をして知識を定着化させることや自ら学習を学び取りにいく姿勢など効果的な勉強法を学習した。

特別授業は、全国の高校を対象に月に1回程度出前授業を行っている柴原氏と縁のある同校英語科担当の森長大輔教諭が依頼をしたことがきっかけ。リスニング力と発音力を強化し、英語の音声理解を向上させることや英語学習への苦手意識軽減などを目的としている。

【網走発】網走市教委は3月1日午後2時から、オホーツク・文化交流センターで国際理解体験事業「世界を旅しよう」網走で外国を体験」を実施する。モンゴル、中国、台湾の三つのブースを設置し、文化や衣装、伝統料理などについてクイズや写真を使って紹介したり、運動や

【網走発】網走市教委は、8日（土）午前10時から、オホーツク・文化交流センターで子ども・子育て会議を開催する。市子ども子育て指導する。

定員は15人。事前申し込みは16日まで。

【網走発】網走市は、10日午後6時30分から市内のオホーツク・文化交流センターで子ども・子育て会議を開催する。市子ども子育て指導する。

定員は15人。事前申し込みは16日まで。

【網走発】網走市立博物館は、8日午後1時30分から講座「骨から考える、動物たちの暮らしと適応」を実施する。獣医師の山崎隼也氏を講師に招き、動物たちの適応進化や生物の多様性について学ぶ。

対象は小学5年生以上30人、参加無料。

【旭川発】上川高校（近藤伸校長）は1月31日、同校で英語科特別授業を実施した「写真」。NHKラジオ講座や英国公共放送BBCの同時通訳を担当していた神田外語大学専任講師の柴原智幸氏がリスニング力と発音力を鍛える授業を展開。生徒たちは、発音時の舌の動きや聞き取りのポイントを学んだほか、反復練習



また、授業を受ける際のポイントを説明。現代の高校生は、模範解答の答えを探す「解あり学習」に慣れている、いくつもある答えの中から自分なりの解答を出す「解なし学習」に慣れないことを指摘した。

その上で「解なし学習」が高校から先の学びのメイになる。何かを問われた時に正しい答えを探すのに焦ったり、正しくない解答を出さないために「答えない」という選択肢を選ばないでほしい」「授業は先生と生徒とのコミュニケーションを土台にしているから、反応がなければ先生は生徒の理解度などが分から

【網走発】網走市教委は、8日（土）午前10時から、オホーツク・文化交流センターで子ども・子育て会議を開催する。市子ども子育て指導する。

定員は15人。事前申し込みは16日まで。

【網走発】網走市は、10日午後6時30分から市内のオホーツク・文化交流センターで子ども・子育て会議を開催する。市子ども子育て指導する。

定員は15人。事前申し込みは16日まで。

【網走発】網走市は、10日午後6時30分から市内のオホーツク・文化交流センターで子ども・子育て会議を開催する。市子ども子育て指導する。

定員は15人。事前申し込みは16日まで。

【網走発】網走市立博物館は、8日午後1時30分から講座「骨から考える、動物たちの暮らしと適応」を実施する。獣医師の山崎隼也氏を講師に招き、動物たちの適応進化や生物の多様性について学ぶ。

対象は小学5年生以上30人、参加無料。

未来かなえる生徒育成へ

道教大附属札幌中

冬季教育研究大会を開催



道教育大学附属札幌中学

同校は、前次研究の成果と課題を踏まえ、こ

「あいたい未来を協えられる実感をもつ生徒の育成」を設定。生徒が仲間と共に課題を解決する必要性や課題に対して熱中できる授業づくりを目指している。

道教育大学附属札幌小学(寺田貴雄校長)は1月30日、同校で冬季授業研究会兼附属中学校園授業力向上セミナーを開いた。「実践的な知を育む、文脈のある学び」の実現を目指した2カ年目の研究成果を披露。

父「じさま」を心配し、はだしで峠の麓にある医者

き出した。全体共有の場面において、生徒は「傾きが変わることがない以上、途中でモードを切り替えることでグラフが平行移動し、二つの一次関数が合体するので、水量の変化を求めたり、起床時間を示す座標軸Xにグラフを平行移動したりして、運動モードを切り替えるのに適した時間を導

や叙述に基づいて考えを深めていった児童たちは「優しい」「いざという時に行動できるのは心根が強いから」と、登場人物の性格にふさわしい表現を次々と出し合った。

文脈のある学び実現へ

他者の良さや可能性認める

道教大附属札幌小 冬季授業研究会

道教育大学附属札幌小学(寺田貴雄校長)は1月30日、同校で冬季授業研究会兼附属中学校園授業力向上セミナーを開いた。「実践的な知を育む、文脈のある学び」の実現を目指した2カ年目の研究成果を披露。

む、文脈のある学び」を副主題に設定。友人との共同体感覚や学校生活に対する当事者意識を育む指導を工夫することで、児童が「居場所がある」と幸福感を感じられる学校づくりを目指している。

前時までの授業で、児童は人物の人物が感じられる叙述を見つけ、その理由を考える「豆太分析メモ」を活用した。

本時では、豆太の性格について、児童一人ひとりが「臆病」または「勇気がある」の考えに近い方へネームカードを貼り、友人の考えを共有。時折、題材の叙述にある豆太のささいな行動や豆田分析メモを振り返りながら「夜にトイレに行けないほど臆病な主人公病」「じさまのために

に活動可能な人」の三つ全てに該当する人。ホームページから応募用紙をダウンロードし、必要事項を記入の上、FAX011(218)5108またはメールthinkgreen@city.sapporo.jpで送付する。3月上旬の書類審査、中旬の面接を経てリーダー候補者を決定。3月下旬の講義、5月上旬以降の実習を受講後、正式に環境教育リーダーとして委嘱される。



言葉」をワークシートに記入。「友人の考えを聞いて、優しさと臆病は似ていると思った」「豆太は甘えん坊な性格だと思う」と振り返り、人物を分析しながら語彙力を高める学びの楽しさを味わった。

道教育大学附属札幌中学(萬谷隆一校長)は1月31日、同校で冬季教育研究大会を開催した。「あいた

公開授業のうち、2年数学科「睡眠時間を守るには？」一次関数の利用(生徒数36人)は杉本教諭が指導。全国学力・学習状況調査結果から見た課題を踏まえ、生徒が具体的な事象を捉え考察し、表現できる指導の手だてを工夫した。

授業では、4種類の運動モードがある7リ貯水の加湿器を購入した主人公が、起床時間前に水がなくなっ

研究2年次目の本年度は、主題「わたし」がそこに在る学校」のもと、各教科の見方・考え方を明確化する「実践的な知を育

父「じさま」を心配し、はだしで峠の麓にある医者

き出した。全体共有の場面において、生徒は「傾きが変わることがない以上、途中でモードを切り替えることでグラフが平行移動し、二つの一次関数が合体するので、水量の変化を求めたり、起床時間を示す座標軸Xにグラフを平行移動したりして、運動モードを切り替えるのに適した時間を導

や叙述に基づいて考えを深めていった児童たちは「優しい」「いざという時に行動できるのは心根が強いから」と、登場人物の性格にふさわしい表現を次々と出し合った。

札幌市 7年度予算案教育関連事業⑤

環境教育リーダー募集

学習支援で札幌市環境局

▽保育人材確保緊急対策費

▽一時預かり事業費

▽実費徴収に係る補足給付

研修、委託後支援等の里親

児童の養育支援が必要と

に活動可能な人」の三つ全

てに該当する人。

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

▽区保育・子育て支援センター整備費

道通ビル 入居者募集

貸事務所、貸店舗
お問い合わせは
北海道通信ビル株式会社
札幌市中央区北五条西六丁目
電話(011)221-3316番